

こんにちは

西  学校です

見附市立西中学校
学校だより

令和3年5月24日

第4号

自分の未来を切り拓く①～基礎基本を！～

校長 水戸 巖

『先生やお父さんお母さんが未来をつくってくれると思ったら大間違いです。』

これは、かつて行われたある作文コンクールのキャッチコピーです。自分の未来は、自分で切り拓くという姿勢や力が、これからの時代には特に求められます。先日の全校朝会では、そのためにあなたはどんな取組をしますか？ と投げかけました。そして、柿沼康二さんという書家の話をしました。以下のとおりです。

この柿沼康二さんは、「サムライ書家」との異名をもち、感情豊かで個性的・創作的な作品を生み出しています。しかしながら、感情のおもむくままに書いているわけではないそうです。むしろ、そのようなものを「個性」とは言わないと否定しているくらいです。では、何を大切にしているのか。それは、「臨書」です。臨書とは、手本とそっくりに書くことをいいます。手本を手元に置き、可能な限り似せて書くようにすることです。

柿沼さんは、今でも毎日、おもに弘法大師（空海）を手本にして、半紙にして約300枚、臨書で練習するそうです。それを極めていったところに「個性」が生まれるのだと主張しています。

感情のおもむくまま・・・それが芸術だという人もいますが、それも確かな基礎・基本があってこそのこと。要するに「基礎・基本」が大切ということです。これは、勉強でもスポーツでも同じですね。中学生時代に、人生の確かな「基礎・基本」をつくる。そんなことを意識して、活動しよう！ 勉強に部活動に・・・皆さんの活躍を期待しています！

この基礎・基本を積み上げることは、とても地道な作業です。スポーツでも実践的な練習の方が楽しいですし、カッコいいプレー・派手なプレーに気持ちがいきがちです。つまらないかもしれませんが、それをいかに徹底してやり抜けるかが大切なのだと思います。最近、生活習慣の徹底を重要視するスポーツの指導者が増えているとのこと。人生そのものの基盤ですね。

明和会総会実施！（5/21）



今年度もテレビ放送によるリモートでの実施です。活発な議論、建設的な提案もなされ、立派な会でした。副会長からは「学級討議では昨年の倍以上の質問・意見が出て、一人一人が真剣に明和会のことを考えてくれた。1年後、輝く西中でいられるように頑張りましょう」と締めくくってくれました。

6月

1(火) 期末テスト(～2日)

2(水) 避難訓練

7(月) 全校朝会

9(水) 中越大会激励会

14(月) 明和会朝会

15(火)・16(水)・23(水)・24(木)・

26(土) 中越大会

29(火) 3年生高校

説明会

30(水) 明和会朝会



※年間計画で、11日に予定していた「激励会」は、都合により、9日に変更させていただきました。

新学習指導要領が完全実施となります…②

「新学習指導要領」の完全実施に伴い、「評価」の仕方も変わります。生徒には、全校集会や授業開きのガイダンス等で説明しているところです。

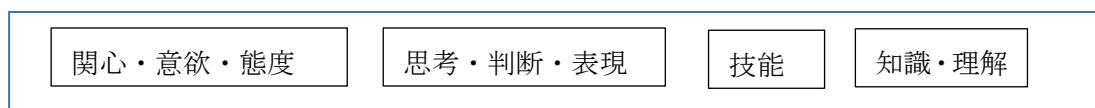
以下、学習指導部からの資料をご覧ください。

* * * * *

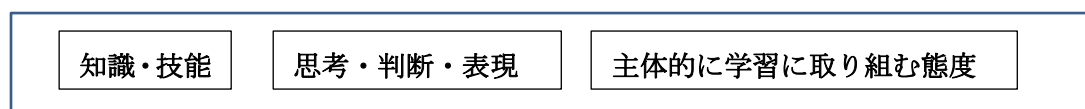
《観点別学習状況の評価について》

学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価（観点別評価）は、今までの4観点「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」（※国語は5観点）から3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に整理されました。

（今までの観点別学習状況の評価）



（新しい観点別学習状況の評価）



知識・技能

各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。

（具体的な評価方法の例）

- ・ペーパーテストにおいて事実的な知識の習得を問う問題
- ・知識の概念的な理解を問う問題
- ・実際に知識や技能を用いる場面を設ける（文章による説明をする、観察・実験をする、式やグラフで表現する等）等

思考・判断・表現

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

（具体的な評価方法の例）

- ・ペーパーテスト
- ・論述やレポートの作成
- ・発表
- ・グループや学級における話し合いなど
- ・作品の制作や表現等

主体的に学習に取り組む態度

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

（具体的な評価方法の例）

- ・ノートやレポート等における記述
- ・授業中の発言
- ・教師による行動観察
- ・児童の自己評価や相互評価等の見取り等

（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「学習評価の在り方ハンドブック」より抜粋）

子どもたちの活動の様子をホームページ(西中ブログ)でお知らせしています。ご覧ください。